

春秋彩

Syunjusai

特集

今の私から未来の私へ

～キャリアデザイン教育システム～ …… 2

活躍する卒業生 …… 7

国際交流 …… 8

研究活動紹介 …… 10

大学の動き・Information …… 12

生き生き元気種 …… 14

大学からのお知らせ・おすすめの1冊 …… 15



 熊本県立大学

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学広報誌

2009 AUTUMN

vol. 31

あいさつ



学長
米澤 和彦

このところ「変化」という言葉が、世の中を席卷しているようです。今回の戦後初の、選挙による本格的な政権交代も、そのひとつの現象とみることが出来るでしょう。

とにかく全ての領域で、変化のスピードが加速してきているようです。たとえば、学生諸君の就職にしても、昨年の金融危機以降、たった1年でまったく様変わりしてしまいました。もはや「十年一昔」ではなく「一年一昔」の感を呈しています。

ともあれ、このような社会の流動化の中、大学は教育・研究という基本理念の上に立ちつつ、これらの変化に迅速かつ的確に対応して行かねばなりません。

そのひとつが、本号で特集されている「キャリアデザイン教育」です。これまでキャリア教育は就職対策である、と誤解されていた面があります。しかし、本学の取り組みは、就職対策のみならず、大学での生き方・学び方、さらには未来の自分についても考察するという、広い視野をもつ卓越したプログラムです。

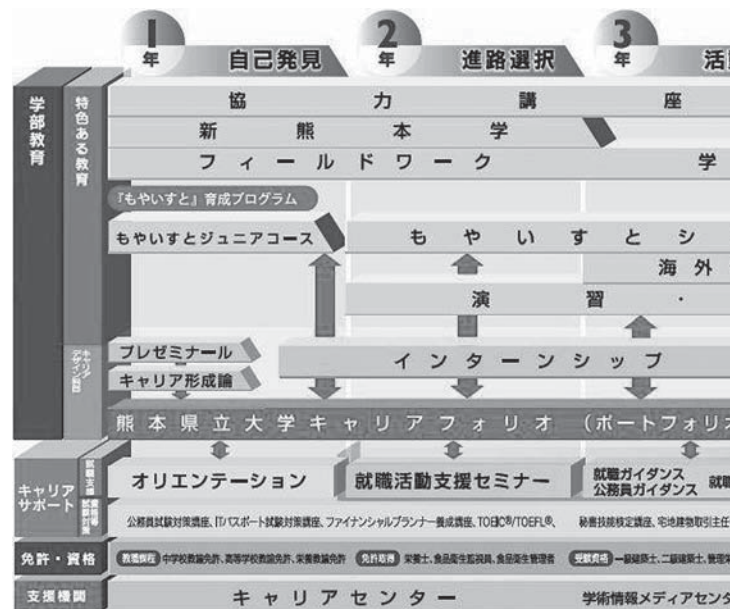
今後とも、本年4月に改組した「キャリアセンター」の充実を図りつつ、創造性に富む人材の育成に全力を注ぎたいと思います。

特集

今の私から未来



熊本県立大学独自の キャリアデザイン教育システムについてご紹介します。



キャリア形成論

教養科目として初年次必修

今日、社会を構成する諸分野の急速な変化とその影響のためか、家庭や学校、地域等、ひろく生活が従来からの生き方とは適合しなくなってきています。多様な生き方、働き方が容認され、広がる一方で、新しい選択肢、多くの選択肢を前にとまどい、選び方に迷い、自分の将来設計が描けずに悩む人も増えてきています。

本学では、初年次前期に教養科目としてキャリア形成論を実施しています。大学生生活が社会人、家庭人、あるいは研究者、教育者としての自己実現のための一過程であることを認識し、主体的に自らのキャリアを構築していくための方法を学びます。



の私へ ～キャリアデザイン教育システム～

熊本県立大学では、充実した教養教育・専門教育のカリキュラムと様々な就職支援・資格試験対策などのプログラムを中心としたキャリアサポートとを、キャリアフォルオ(ポートフォリオ)※を活用して有機的に結びつける熊本県立大学独自のキャリアデザイン教育システムを実施しています。

また、本年4月にキャリアデザイン教育の支援を行う組織として「キャリアセンター」を開設しました。

※本学では、ポートフォリオ(学習履歴の記録)を「キャリアフォルオ」と呼んでいます。

キャリアセンター……………

～自己実現に向けて
頑張るあなたをサポート～



平成21年4月にキャリアセンターを開設しました。

キャリアセンターは、これまで実績を重ねてきた就職センターを前身とする組織です。就職センターが担っていた就職関係のサポートと、本学で推進しているキャリアデザイン教育とを連携させ、学生への総合的なキャリアサポートを行うことを目的とし、学生一人ひとりが自分のキャリアを主体的に考えていくための環境(キャンパス)づくりを推進していきます。

もっとも、いくら有益なサポートがあっても、そして優れたキャンパスであっても、学生の皆さんが主体的でなければ意味はありません。自分の将来を真剣に考えていこうとする主体的な意思がサポートやキャンパスを価値のあるものへと変化させます。主体的な意思の下で、キャリアセンターが提供するサービスを活用し、それぞれ自分の適性に合った未来を選択していくことになります。

【利用者の声】

「キャリアセンターを利用して」

環境共生学部食・健康環境学専攻 4年
荒尾 由佳さん



私が就職活動を行って内定を獲得できたのは、キャリアセンターを上手く利用したからです。

キャリアセンターの中には企業についての資料や様々な情報があり、何よりも頼りになる先生方がいらっしゃいます。私は数え切れないほど相談にのっていただき、よりの確なアドバイスをいただきました。

また、何回も模擬面接を繰り返すことで、声のトーン・抑揚、目線、姿勢など、自分に足りない要素を細かい所まで学ぶことができ、自分らしい、社会に対する姿勢が日々磨かれていくのがわかりました。

この施設があることに私はとても感謝しています。これから就職活動をする方、また今就職活動をしている方も、是非キャリアセンターを活用することで、内定獲得の近道へと進んでほしいと思います。



卒業生、上級生によるキャリア形成体験談

インターンシップ ～全国の大学で8位の参加率～

インターンシップとは、在学中に自分の専攻分野や将来の職業に関連した就業体験を行うことです。

企業、自治体等の現場で実際の仕事を体験することによって、自分の適性を知り進路選択の参考にすることができます。また、職業観を身に付けることもできることから、本学でも積極的に推進しています。その結果、2010年版大学ランキングにおいて、学年定員に占める割合で全国第8位を誇る高い参加率となっています。

●インターンシップの過去3ヶ年の状況

	H18年度	H19年度	H20年度
1年次	30名	37名	66名
2年次	60名	80名	54名
3年次	105名	114名	95名
4年次		1名	
合計	195名	232名	215名
企業(団体)数	87	94	81

【インターンシップ参加者の声】

インターンシップ先

株式会社イズミ ゆめタウン山口

実施期間

平成21年8月14日(金)～18日(火)の5日間

総合管理学部総合管理学科 3年

照本 健人さん



今回のインターンシップを通して、私は売場づくりやメンテナンスも好きという新たな発見をしました。社員の仕事は、品出しやコーナー展開、整理、売上・在庫管理と、お客様と接するというよりは裏方の業務の方が多かったです。接客業に興味がある私にとっては、違うと当初は感じていたのですが、整理や売場づくりでも達成感を味わえ、すがすがしい気分になることから、こういった裏方も向いているのかなと思いました。この経験があっただけでなく、今は色々な業界に興味を持ち、別のインターンシップに参加したり、分析したりと、将来に向けて活動しています。

また、参加だけにとどまらず、本学にはインターンシップを運営している学生もいます。

【ドットジェイピー活動紹介】



総合管理学部総合管理学科 2年

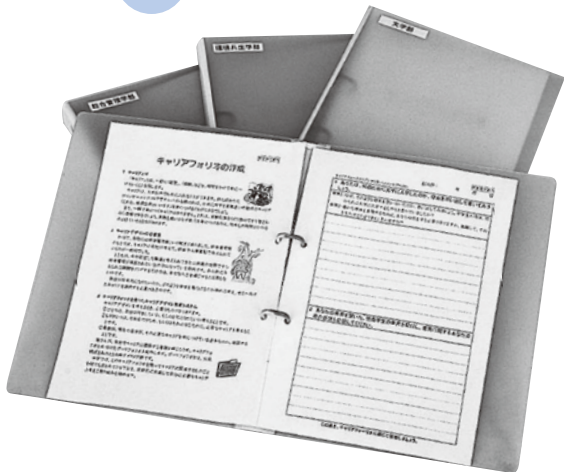
金坂 千晴さん

『若者の政治離れ』、この言葉をよく聞くことがあるのではないのでしょうか。

私はNPO法人ドットジェイピースタッフとして、『若年投票率の向上』というコンセプトのもと議員インターンシップを運営しています。議員のもとへ受け入れをお願いしに回ったり、参加学生を集めたり、何度も関係先へ電話したり、予算の管理をしたりと、すごく忙しいしすごく大変ですが、大学生がどんどん政治に興味をもっていく姿を間近で見ると本当にワクワクします。

大学生って一番自由に動ける時期。大学生にしかできないこと、大学生だから出来ることを思いつくまま挑戦してみるということが、一番大事なのではないかと思います。「大学生活は楽しいですか？」そう聞かれたら胸を張って答えます。「最高です!」と。

キャリアフォリオ ～「わたし」の設計書～



本学では、「キャリア形成論」の中で、キャリアフォリオを学生全員に配付しています。

キャリアフォリオとは、学習履歴や学内外での活動体験、出会い、感じたことなどを記録し、蓄積していくものです。日々の何気ない体験も記録を残すことにより軌跡がわかり、普段漠然と考えていることも整理しやすくなり、新たな「気づき」、新たな「目標」が生まれることもあります。就職のためだけではなく、5年後、10年後に大学時代の自分を振り返る際にも役立ち、一生の宝物になるのではないのでしょうか。

今年度は、さらに活用しやすくするため約20名の学生が学生目線でキャリアフォリオの様式等の改良にあたっています。

【キャリアフォリオ利用者の声】

総合管理学部総合管理学科 1年 村中 美穂さん

私は、キャリアフォリオを学生生活の記録として活用しています。様々なことがある大学生活では、自分のやってきたことを忘れがちですが、せっかくの貴重な体験です。それを無駄にしないためにも、自分の活動や得たことを記録しておくことが重要だと思います。また、活動を記録していくことで自分の強みの発見にもつながるのではないのでしょうか。これからもキャリアフォリオを活用しながら、今後の就職活動にもつなげていきたいと考えています。



資格試験対策講座

キャリアセンターでは、公務員講座を始め、学生一人ひとりが自分の目的に合わせて選択できる各種資格取得講座を後援会と連携して開講し、将来の目標にチャレンジする学生をバックアップしています。

～専門講座の例～

◆ITパスポート試験対策講座

国家試験合格に向け、企業活動にとって欠かせない経営全般、IT管理、IT技術について指導を行います。

◆ファイナンシャル・プランナー養成講座(入門・AFPコース)

個人資産の適切な運用の提案といった総合的なコンサルティングを行う資格の取得に向けて実施しています。

◆宅地建物取引主任者講座

不動産取引に関する専門的知識を持つ者として金融・不動産業界などの企業でも有力な資格の取得に向けて実施しています。

◆簿記検定講座(3級・2級コース)

企業の財務状況を把握し帳簿管理を行い、あらゆる企業で評価の高い資格の取得に向けて実施しています。

◆行政書士講座

官公署の手続等法律の知識を深めるためとともに、資格の取得に向けて実施しています。

◆二級建築士受験対策講座

早期資格取得に繋がる試験知識の強化と一級建築士受験の基礎資料として実施しています。

◆秘書検定対策講座(準1級・2級)

秘書に求められる能力は、電話対応や接客、資料整理、一般常識など、様々な業種・業界において共通して求められるもので、ビジネス社会での基礎力になるものです。

そこで、学生の社会人としての基礎力の養成を図ることを目的として実施しています。

キャンパス・キャリアエンジェル

本学では、平成20年度からスチューデントアドバイザー制度を導入しました。

就職活動や進路選択等に関する相談を、就職活動を経験した4年生（「キャンパス・キャリアエンジェル」という。）がキャリアセンターで行います。

就職を取り巻く環境は非常に厳しくなっており、将来の夢を描くだけでは夢は実現できません。夢を実現するためには、早い段階から自分のキャリアについて考え、「今何をすべきか」をポジティブに考え行動し、準備をしておくことが必要です。しかし、卒業後の進路や就職活動について、自分の適性が分からない、どう行動すればよいか？など、不安や悩みを抱えている学生がたくさんいます。そういった学生に対して、自身の学生生活や就職活動を踏まえて、キャンパス・キャリアエンジェルが相談にのってくれます。



キャンパス・キャリアエンジェルへの相談

利用時間等は次のとおりです。

■期間／10月～2月の平日
(土・日・祝日を除く)

■時間／10:00～17:00
ただし、昼休み時間
(11:50～12:50)は除く

熊本県立大学キャリアセンター開設記念シンポジウム 「大学での学びとキャリア」

キャリアセンター開設を記念して、平成21年6月21日(日)に本学大ホールにおいて、シンポジウム『大学での学びとキャリア』を開催しました。

シンポジウムの開会にあたって、米澤和彦学長が「大学での4年間、特に初年次に大学でどのように学び、どのように自分の将来展望を描くことができるかが大事。学生には『地域に生き、世界に伸びる』人材に育てて欲しいと願っている。」と挨拶しました。

基調講演では、同志社大学教育開発センター所長 山田礼子教授より、日米の初年次教育の内容、初年次教育の必要性、「ポジティブ学生」と「ネガティブ学生」の違いなどを、データや具体的な事例を示しながらわかりやすく説明していただきました。また、高校までの学習と異なり、大学では自ら授業を選択して学ぶ、自ら積極的に学びに入っていくことに気づく（「ポジティブ学生」になる）ことが大切であり、この「気づき」により4年間で大きな差を生むことになること、また「ポジティブ学生」を生み出すための環境を提供することが大学の初年次教育であるとのお話をいただきました。

パネルディスカッションでは、本学キャリアセンター長 津曲隆教授をコーディネーターに、熊本シティエフエム専務取締役 大園光さん、トヨタ自動車勤務 佐志綾乃さん(本学環境共生学研究科博士前期課程2008年3月修了)、本学総合管理学部4年 松尾美穂さん、本学文学部 山崎健司教授をパネリストに、大学での学びがどのようにキャリアにつながっていくのかについて、ご自身の経験や体験をふまえたお話をしていただきました。

参加者アンケートも極めて好評で、大学で何を学び、何を身に付けていくのか、社会に出てからのキャリア形成にどのように結び付けていくのかについて、参加者一人ひとりが考えていくうえで示唆に富むシンポジウムでした。



活躍する 卒業生

さまざまな分野で活躍する熊本県立大学の卒業生を訪ね、
現在のお仕事や、ご自身の学生時代について、語っていただきます。

熊本県立大学環境共生学部卒業後、博士前期課程、北海道大学大学院の博士
後期課程へ進学され、博士号取得後、愛媛大学博士研究員に。着実に研究者
としてのキャリアを積んでいる小森田さんにお話を伺いました。

学生時代に培ったスタイル “先端の研究を為す一方で、 地域社会へのフィードバック”

愛媛大学沿岸環境科学研究センター
機関研究員

小森田 智大 さん



Profile

熊本県立大学大学院環境共生学研究科(博士前期課程)2006年修了。
北海道大学大学院環境科学院(博士後期課程)2009年修了。
同年4月より現職。

ポスドクという仕事

私は現在、愛媛大学でポスドクとして研究に従事しています。このポスドクとは博士研究員(はくしけんきゅういん、postdoctoral fellow)のことで、博士号(ドクター)を取った後に任期制の職に就いている研究者を指します。ポスドクは、通常3から5年の任期があるため、将来に対する不安がある一方で、たくさんの人と出会えることで、新しい技術や知識などを習得して、ステップアップする絶好のチャンスでもあります。

海の研究とは

私の専門分野は、環境共生学部から大学院を通して学んだ、海の問題です。皆さんにとっての海は、有明海や八代海、天草の海などが身近だと思います。海の中には、海水中を漂う植物プランクトンがいて、それを食べる動物、さらにそれを食べる魚などがいて海の生態系が成り立っています。今の主な研究の1つは、実際に船に乗り、植物プランクトンの肥料になる物質の量を測定することで、これらの肥料物質がどこから来て、どこで使われているのかを明らかにすることです。私の研究を家計に例えると、毎月の主な収入(肥料物質の流入量)が何か(例えば給料、小遣い、年金等)を調べて、そのうちの支出がいつど

こで使われるのかをはっきりさせることです。お金と違い、この肥料物質は海にたまり過ぎることで、海の状態を悪くしてしまいます。この現象の顕著な例として、最近有明海では、植物プランクトンの大増殖である赤潮が頻発しています。このような事象も起こり得ることから、私は自身の研究を通して、上手に海と付き合う方法を模索しています。

学生時代に学んだこと

博士課程在籍時には、北海道東部にある火散布沼(ひちりつぶぬま)と言う場所に、車で8時間かけて通っていました。今は、その時の研究成果を論文として国際的な雑誌に投稿する一方で、地元の方に分かりやすく伝えるためのニュースレターを自主的に発行しています。この“先端の研究を為す一方で、地域社会へのフィードバックをする”というスタイルは、環境共生学部時代に培われました。大学時代に学べることは、人それぞれだと思います。後輩の皆さんには、その中で何が重要なのかを見極めて欲しいと思います。



留学生レポート

文学部 英語英米文学科 4年 多森 萌黄さん

私は、2008年8月11日から2009年5月1日まで、熊本県立大学の交換留学制度を使って、アメリカのモンタナ州にある、Montana State University Billingsという大学に留学してきました。私が留学をしたいと思ったのは、高校生で進路を決めた時でした。理由は、「広い世界を見たかったから」です。その思いは、大学に入学し、いろいろな人との出会いや授業を通して、今まで知らなかった世界を知る度に、さらに大きくなりました。大学生という、一番大人に近く、自由な時間がある時に、自分の目で世界を見てみたかったのです。

MontanaはBig Sky Countryという別名があるほど、空がとてもきれいでした。初めて、Montanaに着き、ホストファミリーと出会った日に見た空は、本当に青くてきれいでした。初めは英語を話すのも、積極的になるのもとても難しく、毎日全てが挑戦でした。ホストファミリーと思いを伝えあうこと、友達を作ること、授業で学ぶこと、全てがうまくいかず、泣いたこともありました。しかし、一回失敗しても諦めなければ、最終的にできなかったことはなかったように感じます。言語の壁のせいで、友達を作るのも簡単ではありませんでしたが、諦めずにコミュニケーションをとっていけば、最終的には国境を越えて笑いあえました。授業も、理解するのに時間はかかり、夜遅くまで勉強していましたが、その分先生方から教えて頂いたものは大きく、また、どの授業を通して日本人の自分を通して、日本のことをクラスに伝えることができました。結果、International Student Leader Awardという、留学し



International Student Leader Awardを受賞



留学生みんなとRodeo観戦 前列右端 多森さん

ている学生の中から一人だけもらえる賞を頂けました。しかしながら、この賞は私一人では絶対にとることができなかったと思います。一緒に頑張った平山恵さん、家族のように支えてくれたホストファミリー、楽しい時間を一緒に作ってくれたたくさんの友達、日本で応援してくれた家族・友達、留学する機会を与えてくださった熊本県立大学、みなさんのおかげです。

約9カ月のアメリカでの留学生活は、今思い出しても色鮮やかに私の心に蘇ります。ここには書ききれないほどのたくさんの経験をして、私の世界観はぐんと広がりました。留学は、全てが自分次第だと思います。自分と向き合うことができると思います。この経験をばねにもっと成長していきます。

ホストファミリー レポート

ホストファミリーを経験して

環境共生学部 居住環境学専攻 3年 麻田 瑠美さん

きっかけは、一年前に私自身がアメリカでホームステイをしたことでした。3週間のアメリカでのホームステイは、ホストファミリーがあたたかく接してくれ、日本について知ろうと努力してくれることに感激しました。アメリカでの生活をとても楽しく送ることができたのは、何よりホストファミリーのおかげでした。この体験から、私も何かできないだろうかと思うようになり、そんな時に、大学の掲示板でホストファミリー募集を見つけ、「これだ!」と思いました。

始まる前は、不安ばかりで緊張していましたが、留学生を迎えていろんなことを話しはじめたら、そんな不安はすぐに消えました。

Exchange

熊本県立大学では、「国際性の推進」を三大理念のひとつに掲げています。その理念をより具体化するため「国際交流ビジョン」を策定し、「学生」、「学術研究」、「地域」、それぞれの視点から全学的に国際交流活動を推進しています。

日本のことはもちろん、熊本のことも知ってもらおうと、熊本ラーメンや馬刺しを食べに行ったり、熊本城や阿蘇、山鹿に行ったり、いろいろな場所に行きました。

みんなとても勉強熱心で、日本語もとてもうまく、会話が困ることはほとんどありませんでした。特に私の家に来ていたイネさんは、勉強熱心かつ好奇心旺盛。気になったことは、何でもすぐ質問する。その姿勢に私も学ぶことができました。そして、流行っていること、政治のことなど、お互いの国について、また、文化の違いだけでなく、そこから考える考え方の違いについてまで、毎晩遅くまで話し続けました。



日本のヤングカルチャー、フリクラもとりに行きました。



菊池溪谷にて、右 麻田さん、左 イネさん

そこから得た新しい発見もたくさんあり、当たり前だと思っていたことも、実はそうではないと考えさせられることも多くありました。日本に興味を持って、知ろうとしてくれたことがとても嬉しくて、私も相手の国のことについて、もっと知りたいと思うようになりました。よく知り、良いところは素直に認め合えるような交流が国同士でできたら、と思います。

留学生のために何かしたい、と申し出たホストファミリーですが、このようにたくさんの貴重な経験ができよい勉強になり、私自身のためになったと感じています。

サンミョン 第2回 祥明大 熊本県立大学 学術フォーラム

〔開催報告〕 文学部 教授 三木 悦三

7月1日(水)午後2時半から熊本県立大学中ホールで第2回祥明大 熊本県立大学学術フォーラムを開催しました。昨年9月5日に大韓民国祥明大 天安キャンパスで開催された第1回学術フォーラム(テーマ「日本語と日本文学を見る、二つの視点」)に続くもので、今回は「ことばと文学一境界を越えて」のテーマで言葉を研究する意義と文学の国際化の可能性について討議が行われました。

祥明大からは「萩原朔太郎と韓国」(梁東国、語文大 日本語日本文学科教授)、「韓国語における条件標識の拡大現象に関する文法化からの分析」(具顯禎、同教授)、本学からは「日本語における主観性」(清水啓子、文学部英語英米文学科准教授)、「母娘関係の変容—現代女性小説にみる戦後の英国社会」(水尾文子、同准教授)の4つの研究発表が行われました。具教授の発表には日本語の通訳が付きました。休憩の後、本学文学部日本語日本文学科鈴木元教授の司会のもとにフロアからの意見も織り混ぜながら熱心な討論が交わされました。本学学生・県民市民合わせて200名を超える参加者を得て、盛会のうちに閉幕しました。夕刻には文学部主催レセプションがKKRホテル熊本で催されました。

なお、第3回学術フォーラムは来年度、会場を祥明大 学校に移し、環境問題をテーマとして開催される予定です。



研究活動紹介



総合管理学部 准教授
飯村 伊智郎

Profile 鹿児島大学大学院理工学研究科(博士後期)修了。
博士(工学)。
上智大学大学院(博士前期)修了後、(株)日立製作所
日立研究所勤務などを経て、2002年4月から本学教員。
2006年4月に助教授。2007年4月から現職。

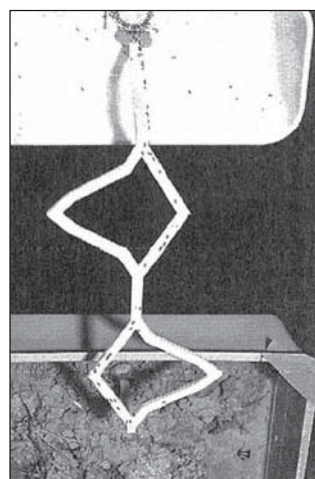
知能情報学研究室

本研究室では、「かっこいいソフトウェア」と「やさしいコンピュータ」の研究を通して、人間とコンピュータとが豊かに共存し安心できる便利な社会の実現に貢献することを目指しています。

かっこいいソフトウェア?、とハテナが頭に浮かんだ方も多いでしょう。専門的には人工知能(Artificial Intelligence: AI)と呼ばれ、あたかも知能をもったような知的な振る舞いをするソフトウェアのことです。私はそのAI分野の中でも、特に進化的計算(Evolutionary Computation)や群知能(Swarm Intelligence)に興味を持っています。進化的計算は、自然に学ぶ問題解決(Problem Solving from Nature)を目指すアプローチのひとつで、生き物の進化の過程に着想を得た計算手法の総称です。群知能は、アリやハチなどの社会性昆虫や魚など、個体の知能が低く群れて生育している生物に見られる知能のことです。

ここで、群知能の一例をみなさんの身近なアリ(社会性昆虫の一種)を取り上げ見ていくことにしましょう。アリの眼は近くがぼんやり見える程度であり人間のような優れた脳も持っていません。なのに、なぜ巣と餌との間を行き来できるのでしょうか。しかも最短経路で... 餌探しに一匹ずつ巣から出かけるアリは、別に目標があるわけではなくあちこちと歩き回ります。いわゆるランダムウォークですね。アリは餌を見つけると、太陽コンパスを使って巣に帰ります。その際、帰り道に道しるべフェロモンを分泌しながら帰ることで、

「かっこいいソフトウェア」と「やさしいコンピュータ」



アリの経路探索(上: 餌、下: 巣)

【出典】E. Bonabeau, G. Theraulaz, M. Dorigo:
Swarm Intelligence, Oxford Univ. Pr., p.30 (1999)

巣にいる仲間に餌の在処を教えるのです。巣にいたアリは、このフェロモンの跡をたどって餌のある場所に行き、餌を持って帰巣しますが、その際も先程と同様に帰り道に道しるべフェロモンを分泌するのです。このフェロモンは揮発性があるため、一定時間で何往復もできる最短経路上には次々にフェロモンが分泌され濃度が高まりますが、遠回りをする経路では、最短経路ほど何往復もできないため、フェロモンが蒸発し濃度が低くなっていきます。アリはフェロモン濃度の高い経路に誘引される性質があるため、さらに最短経路上のフェロモン濃度が高まっていき、いずれ最短経路上にアリの大行列ができることになるのです。

アリの説明が長くなりましたが、実はこの仕組みをソフトウェアで実現すれば、例えば、出発地を巣、目的地を餌と考えることで実世界における最短経路問題を解くことができるのです。まさに自然に学ぶ問題解決ですね。最短経路問題は一例ですが、私は、このような自然にヒントを得た解法で、私たちの身の周りの社会・企業活動における計画・運用に関わる大規模な最適化問題を実用時間で解く新たなアルゴリズムを提案していきたいと考えています。

次に、私のもうひとつの研究の柱であるやさしいコンピュータについて、触れてみたいと思います。専門的には、ヒューマンインタフェースと呼ばれます。幸か不

幸かこれだけ情報通信技術が発展し、今やコンピュータがなければ社会が機能しない世の中になりました。コンピュータを操作する際には、キーボードとマウスを使用するのが一般的ですが、これではキーの配置を覚え、マウスの使い方などを学習する手間が生じてしまいます。一般に、人間同士の意思や感情の情報伝達においては言葉による言語的手段に加えて、身振り手振りなどの身体メディアによる非言語的手段(ノンバーバルコミュニケーション)であるジェスチャーも重要なコミュニケーションのひとつであると言われていています。このジェスチャーをコンピュータが理解することができれば、自然で直感的な新しい入力手段になり得ると私は考えています。



数字“2”のジェスチャー

最近の当研究室での研究事例をひとつ取り上げてみましょう。右の写真は、家庭用ゲーム機Wiiに付属のWiiリモコンを入力デバイスとして、数字や記号のジェスチャーをニューラルネットワーク(人工知能の一種)によって認識させることを試みた研究です。これ以外に、Google Earthを操作したり、手旗信号を認識したりなどの応用研究も進めています。今回の研究では、ジェスチャーをコンピュータに取込むための加速度センサーとして身近にあるWiiリモコンを採用しましたが、このセンサーを小型化すればより自然で直観的な入力手段になり得るでしょう。

研究室生が国内・海外での学会で受賞

学生は十人十色で、それぞれ得意分野のベクトルの向きが異なります。当たり前のことと叱られるかも知れませんが、私は学生との対話(議論)の時間を意識的に多く持つようにしています。その中で、その学生のよさを伸ばすためには研究のベクトルをどの向きに向け

るべきかを指導の上で考えるようにしています。また、学生同士が切磋琢磨できるようチームブログを導入し、それぞれの研究の進捗状況をお互いにいつでも把握できるような研究環境づくりにも、私なりに力を入れています。このようなことの積み重ねが功を奏したのかは分かりませんが、少ないながらも毎年それなりの研究成果が生まれ、昨年度を例に挙げますと、3年生が大阪で開催された教育システム情報学会(関西支部)の学生研究発表会で奨励賞を受賞し、4年生がハワイで開催された国際会議で口頭発表しStudent Paper Awardを受賞するに至りました。当研究室の学生が国内や海外で評価されることは私の何よりの喜びとなっていると共に、私は彼らからさらなる教育・研究活動の活力を与えてもらっています。

多くの学術論文を執筆 — 論文とは

私にとって学術論文とは、研究活動に直結した自己表現の一種です。学問分野で異なるとは思われますが、知能情報学の分野では、論文を投稿した場合、通常数名の査読者によるレビューがあります。つまり研究の成果を新規性や有用性の観点から審査されるわけです。昼夜問わず進めてきた研究の成果が、当該研究分野の発展に貢献する内容であると認められたときに、めでたく学術論文として採録されることになるのです。ゴルフ用語で、自分の年齢よりも低い打数で1ラウンドを終了した者をエイジ・シューターと呼びますが、私は査読付き学術論文の本数で、逆の意味でのエイジ・シューターを目指したいと思っています。



研究室内での研究発表会風景(そよ風パークにて)



飯村研究室
(国立阿蘇青少年交流の家にて)



学生自ら企画・運営 熊本県立大学の体育祭 「PUKリンピック」開催

体育祭「PUKリンピック」が、5月9日(土)に小峯グラウンドで開催されました。20年ぶりに、また、熊本女子大学から熊本県立大学に名称を変更して初めての体育祭です。約500人の学生が参加し、玉入れや騎馬戦、綱引き等でさわやかな汗を流しました。体育祭実行委員長の田上香菜子さん(総管2年)は、「学部や学年等の垣根を越えた友情をはぐくむのはスポーツが一番と計画。素晴らしい経験ができ感動した。実行委員メンバーや協力して頂いた方々に感謝!県立大学の伝統行事になって欲しい。」と熱く語りました。

九州巡回リレー講義第2弾! 「熊本県立大学みやざき講演会」を開催

熊本県立大学講演会は、九州圏域において存在感のある大学を目指して昨年度から開催しています。今年度は、7月19日(日)に宮崎県市町村職員共済組合「ひまわり荘」を会場に53名参加のもと開催しました。

講演会では、米澤和彦学長の地方分権をテーマにした講演を始め、宮崎県出身の津曲隆教授、長嶺寿宣准教授から各々の研究内容を中心とした講演がありました。古賀実副学長の環境共生学部紹介の後、参加者との意見交換会が行われ、「非常に良い企画」、「今後も開催してほしい」などの感想をいただき大変好評でした。



熊本県立大学“くまもと夢実現” 推薦入学制度創設

本学では、県下の経済情勢並びに県民への「高等教育機会の提供」という公立大学のミッションを踏まえ、経済的事情から大学進学を断念せざるを得ない進学希望者の夢を実現するため、勉学意欲の高い生活保護世帯の進学希望者を対象とした新たな推薦入学枠を創設しました。

募集人員は、全学部・学科(3学部・6学科)で2名以内となっています。検定料も免除され、入学者については、入学金の免除及び「熊本県立大学奨学金」として授業料相当額が卒業時までの4年間給付されます。

平成21年度教員免許状更新講習実施!

8月17日から25日まで、本学で15科目の教員免許状更新講習を実施しました。

講習には、290名(延べ475名)の現職の先生方が、必修科目の教育の最新事情に関する講習や、選択講習として、国語科、英語科、環境教育、情報教育等バラエティに富む実践的な講習を受講。受講後のアンケートでも、多くの先生から、講習の内容や方法、最新の知識・技能の習得について、「よかった」と評価をいただき、大変有意義だったとの感想が聞かれました。



熊本県立大学中ホールに同時通訳ブースを設置

国際的な会議・学会等に対応するため、熊本県立大学中ホール(316名収容)に同時通訳ブースを設置しました。
本ホールは、本学以外の一般貸出も行っていきますので、学内・学外を問わずご利用いただけます。ぜひご活用をください。
※同時通訳を行うためには、別途受信機、反射盤等の必要な機材の持ち込みが必要となります。



第3回 熊本県立大学食育標語コンテスト最優秀賞作品決定!!

熊本県立大学では、学生に対する食育の普及啓発を目的として、毎年6月に「熊本県立大学食育標語コンテスト」を実施しています。

今回は「学生のまち熊本」と食育」というテーマで募集を行い、学生・教職員など104名から213作品もの応募がありました。最優秀賞には、総合管理学部総合管理学科3年 菅原 直希さんの「学生の 明日を創る 肥後の食」が選ばれ、6月の食育の日のイベントにおいて表彰状と副賞(図書券2,000円、「食育の日」定食1年分)が渡されました。

熊本県立球磨工業高等学校による木製看板が完成

昨年度から熊本県立大学と熊本県立球磨工業高等学校が高大連携の取り組みの一環として製作していた伝統建築技術を用いた木製看板が、国体道路沿いに完成しました。



平成21年5月28日に本学米澤和彦学長から製作いただいた熊本県立球磨工業高等学校の伝統建築専攻科の生徒へ感謝状を贈呈しました。

サークル便利 【吹奏楽部】

7月12日(日)、熊本県立劇場にて第53回熊本県吹奏楽コンクールが開催されました。熊本県立大学吹奏楽部も出場し、創部以来初めての金賞を受賞しました。居住環境学科3年の中島沙也部長は、「今後は、学校と連携した演奏会など、さらに積極的に活動していきたいです。」と述べています。

(トランペット担当:総合管理学部2年 富崎 美和)

熊本県吹奏楽コンクール 金賞受賞!



後援会便利

後援会とは

- 本学学生の保護者またはこれに準ずる方を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

後援会の事業

次の4つの事業を中心に学生の活動全般を支援しています。

《就職対策事業》

- 就職対策講座として、公務員講座、二級建築士講座、簿記講座等を開催。
- 適職診断プログラムの実施、各学部による就職支援事業への助成、OB・OGと連携した就職支援事業の展開。

《学生活動支援事業》

- 各サークルの活動費の一部、全国大会出場経費等の一部を助成。
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し、図書館へ配置。

《国際化推進事業》

- 海外留学・研修期間に応じて渡航経費の一部を助成。
- 留学対策講座の開催。

《教育研究助成事業》

- 学生共同自主研究助成(学生グループが自発的に行う研究経費の一部を助成)
- 国内学生大会等出場助成(インターゼミナール等への出場経費の一部を助成)

《国際化推進事業》の一例

国立台北科技大學との学術セミナー

平成21年9月13日～19日に環境共生学部の学生10名と篠原教授が国立台北科技大學との学術セミナー参加及び環境実情調査のため台湾に行ってきました。

学術セミナーでは、国立台北科技大學の学生と英語での口頭発表やディスカッションを行い、交流を深めました。

夏休休業中は、他にも多くの学生達が、海外留学・研修助成事業を利用し、海外での語学留学や交流を体験しました。



生き生き
元気種!
だね

このコーナーでは、サークル活動をはじめ、
地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。

合言葉は、

“KEEP CLEAN, KEEP GREEN.”

NPO法人green birdは、「きれいな街は、人の心もきれいにする」
をコンセプトに誕生した参加型ボランティアプロジェクト。「ゴミ
やタバコをポイ捨てしない。」と<宣言>すれば、green birdのメン
バーとなり、主な活動は、「街のそうじ」。自分たちが住む街をもつ
とキレイで、もっとカッコイイ街にするために活動に参加する坂口
さんにお話を伺いました。



文学部
日本語日本文学科 4年
坂口 亜耶さん

green birdは、東京の原宿表参道から、「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセ
プトにスタートしたプロジェクトです。現在、国内の28チームに加え、パリ・スリランカの合
計30チームが各地で活動しています。

熊本チームの正式キックオフは2008年7月1日でした。向野幸子・河野恭一郎の両リー
ダーに率いられ、熊本の中心街を拠点に活動しています。月4度の定例おそうじを中心に、
城東地区など各地域清掃への参加、ローターアクトなど他団体とのコラボ、熊本市街で行
われる催しへの参加など、活動内容はさまざまです!



朝そうじは大学生、夜そうじは街で働く社会人の方々、
日曜の昼そうじはよちよち歩きの子どもから元気なお
年寄りまで様々な年齢層のメンバーが集まる賑やかな
活動は、リーダー曰く「爽やかな合コンのようなもの」で
す。自分たちの街を、居心地の良い場所にしたい! 大好
きな熊本を、キレイでカッコイイ街にしたい! そんな思
いで集まるメンバーとの活動は、友達と「街ぶら」してい
るかのよう。ゴミだけでなく、新しい友だちとの出会い
も捨ててしまう、これこそgreen birdの魅力です。



ゴミのポイ
捨てかっこ
悪いぜ。

green birdに参加するのに、手続きや登録、事前の準備は一切不要! スケジュールが合う時に、鶴
屋裏の蓮政寺公園に集まるだけ。熊本チームは正式発足して一年弱の若い団体で、毎回どんどん楽し
い仲間が増えています! ところが残念なことに、熊本県立大学の学生の姿はまだあまり見られませ
ん。他の大学の学生と、社会人のお兄さんお姉さんと、人生の先輩のおじいちゃんおばあちゃんと、あ
なたも一緒におそうじしませんか? green birdはいつも、新しいメンバーを歓迎します。オフィシャ
ルサイトで活動の様子も報告しているので、興味がある人はぜひ見てみて下さいね!

[NPO法人green bird] <http://www.greenbird.jp/>



大学からのお知らせ

熊本県立大学未来基金を創設

～寄附金の募集を開始しました～

熊本県立大学では、2006年の公立大学法人化を機に、「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに掲げ、「地域実学主義」に基づく教育と研究を実践し、地域に根差しながら、世界を見据える人材の育成に努めています。

しかしながら、大学間競争が熾烈化する中、本学が、これまで以上に地域に根差し、地域に支持される大学として発展していくためには、大学のさらなる価値向上を図る必要があります。

このため、本学では、さらなる教育研究環境の充実を図り、地域社会に貢献する有為な人材の育成及び優れた研究成果の創出に資することを目的に「熊本県立大学未来基金」を創設しました。

本学では、この基金を基に、「熊本県立大学奨学金」の充実、学び直し・学び直しなど地域が求めるCPD(専門継続教育)センターの開設、「熊本で世界と向き合う」をコンセプトとした国際化事業、若手研究者・女性研究者育成事業などに取り組み、地域に貢献する有為な人材の輩出、研究成果の地域への還元に努めたいと考えています。

何卒、基金創設の趣旨にご理解、ご賛同いただき、熊本県唯一の公立大学「熊本県立大学」の発展に、ご支援、ご協力をお願いします。

問い合わせ先 公立大学法人熊本県立大学事務局企画調整室 | TEL: 096-321-6604 FAX: 096-384-6765
〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号 | E-mail: kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

熊本県立大学未来基金
PUK Future Fund



募金
趣意書

「地域に生き、世界に伸びる」

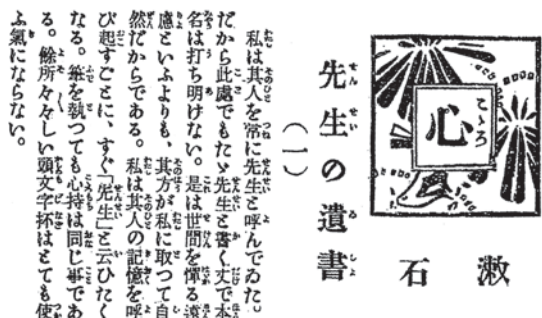
熊本県立大学は、「地域実学主義」に基づく教育と研究を実践し、地域に根差しながら、世界を見据える人材の育成に努めています。

公立大学法人 熊本県立大学

おすすめの1冊

夏目漱石『こころ』

岩波文庫、角川文庫、新潮文庫など、320～483円



『こころ』は、最初「先生の遺書」という原題で、東京・大阪朝日新聞に連載されました。

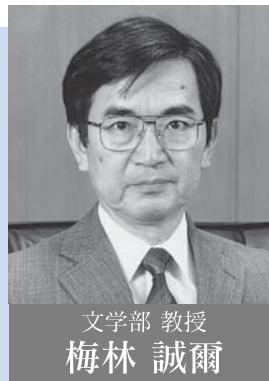
写真は、大正三年四月二十日付け東京版朝日の連載第一回の冒頭です(『漱石新聞小説復刻全集8』ゆまに書房より転載)。

『こころ』に登場する先生は、草食系男子らしい。美しい妻がいながら、人生に対して意欲がなく、仕事にも就かずぶらりとしている。しかも、先生は大学を出て、豊かな知識としっかりした見識を持っている。主人公の大学四年の「私」にとって、そうした先生の暮らしぶりは謎であった。「私」は先生を尊敬し、先生の謎に惹かれ、それを解こうとする。その謎

は、作品の最後の章で、自殺した先生からの手紙(遺書)を「私」が読むという形で、いや私たち読者が読むことによって明かされる。そこで明かされる若き日の先生の姿は、肉食系であった。後に妻となる女性を友人Kから奪おうとして、Kの良心を利用し、その結果Kを自殺に追いやったのだから。しかし、そうした過去を主人公の「私」に打ち明けることは、先生にとっては、自らの深い心の闇を直視し曝け出すことであって、耐えられることではない。それは、命を絶つこと、草食を越え、絶食を意味した。

前期の授業で漱石の『こころ』について報告してもらった。報告者は食健康科学科ではなく文学部の学生だったので、「漱石恋愛論―草食、肉食、絶食の関係」ではなく、「先生と遺書」の章における漱石の小説技法についてだった。読者が、「私」を介さずに、「先生」の心の闇に触れるよう漱石は技法を工夫しているという、よく考えられた報告だった。

それにしても、主人公の「私」はどうなったのか。主人公の「私」が先生の遺書を読む、読者の私が先生の遺書を読む、漱石はこの二つをぴったり重ねている。しかも、遺書の中の「私」は先生である。三人の私はどうなるのか、もう一度、読んでみよう。



文学部 教授
梅林 誠爾

図書館古文書 ライブラリー

熊本県立大学学術情報メディアセンター(図書館)に
収蔵する貴重資料を紹介します。



熊本女子大学郷土文化研究所史料

写真左: 左「郷土文化研究所記録」(昭和25年7月20日～至28年10月2日、B5ノート、ペン書)
右「史料目録」(昭和29年3月25日～11月14日、B5ノート、ペン書)
写真右: 2種の印形と印鑑

熊本地域の文化と歴史の究明を志した「熊本女子大学郷土文化研究所」は、本学の前身である熊本女子大学の教員が中心となって立ち上げた有志の組織で、徹底的な文献実証学の方針のもとに数々の重要かつ先駆的な業績を残しました。

写真左の「郷土文化研究所記録」には、その設立経緯や研究活動、正式な大学組織にするための上申書の草案などが詳細に記され、また、「史料目録」には、熊本のいたるところで調査された600点以上の一次史料と調査場所・日程が記されています。

これらの史料は、本学の偉大な先人の足跡を「今」に蘇らせ、より良い未来の在り方を私達に問い、語りかけてくれます。

解説: 文学部 講師 大島明秀

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502 (住所記載不要)
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp



発行: 熊本県立大学

〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL 096(383)2929(代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

再生紙を使用しています

